

冠動脈疾患における拡張期血圧の降圧

フランスの Emmanuelle Vidal-Petiot 氏らは、高血圧と診断されたことはないものの安定狭心症のために 1 剤以上の降圧薬を服用している、血圧 140/90mmHg 未満の安定冠動脈疾患患者約 6000 例を追跡調査。



その結果、拡張期血圧（DBP）が80～89mmHgにあると心血管リスクが上昇する一方、収縮期血圧（SBP）が130～139mmHgであっても心血管リスクは高まらないことを、第28回欧州高血圧学会で報告しました。



冠動脈疾患患者では拡張期血圧80mmHg未満が有効です。